

平成30年度（平成29年度事業）笠間市教育委員会外部評価委員会評価結果に対する改善への取組について

事業名	外部評価結果	意見・提案事項	改善への取組
図書館サービス事業 笠間・友部・岩間図書館	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> 足を運んでもらう企画をどんどん実施してほしい。 ライブラリーカフェなどの新しい取組を進めていただきたい。 ネット環境の充実は、今後も進めていただきたい。 増加する書籍の管理・分別に期待する。 インターネットでの予約や各館での受取が出来ることなど、広報を充実すると良い。 今後の方向性を示していただきたい。 三館独自の課題・方向性を知りたい。 	<p>図書館施設を利用した、多彩なイベントを実施していきます。キッチンカーによる、移動販売を充実させていきます。</p> <p>現在、FREESPOTで公衆無線LANを提供していますが、今後は、IBRAKI-FREE-Wi-Fiも使えるようにしていきます。資料については、ICチップで管理していますが、平成30年度からは、より精度の良いバーコード付きICを採用しています。</p> <p>新規登録者にはその都度説明しておりますが、常時、広報紙やチラシ等で周知を図っているところです。</p> <p>市内外に情報発信して、より自由度の高い図書館、親しみやすい図書館としてアピールし、利用促進を図っていきます。三館独自の課題及び方向性については、笠間図書館が美術芸術関連資料の充実、友部図書館が歴史関連資料の充実、岩間図書館が農業関連資料の充実であり、資料を収集し特設展示等を行っていきます。</p>
県下中学校交歓笠間市駅伝大会事業 スポーツ振興課	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> 安全に注意して継続を望む。 事故や健康面での対応はしっかりしていただきたい。（AEDなど） 受入側の努力として、実施環境の整備と応援者のより多くの参加をお願いしたい。 参加費は、参加側の動機付けになると思うので、継続、必要に応じて増額も考慮できるのではないかと思います。 数値でない部分の実績についても、広報を行うとより良いと思う。 参加チーム数や参加人数を増やすということではなく、中学生がこの大会に参加することで、健全な身体や心を育むことが目的である。 	<p>今後も、安全面、事故・健康面、参加者が減少しないように取り組みます。</p> <p>参加費は、これまでどおり徴収して参ります。</p> <p>競技結果は、これまでどおり広報し、今後も、目的に沿って事業を行います。</p>
スナッグゴルフ大会事業 スポーツ振興課	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> ゴルフ自体が不況の産業であるから、若い世代に繋げていかなければいけない。 非常に良い試みである。地域の活性化、異世代交流、ジェントルマンの教育など、小学生向けに行うことの重要性が感じられる。 道徳教育にも活用していただきたい。すべて自己申告で勝敗が決まるスポーツであり、紳士的な振舞いや道徳観が養われる。 学校によってチームの構成が違っている現状がある。公平性を保つための指標が必要かもしれない。時間が許せば、学年別にするのも良いのではないか。 参加者数の上限は理解できる一方、予選大会等、すそ野がより広がるような取組も考えられるかと思う。 さらに積極的な広報を進めていただきたい。 少人数校の児童を集めて、定期的に練習場所を提供する取組があっても良い。 	<p>今後も、ゴルフのまち笠間として、地の利を生かし継続して事業を行い。スナッグゴルフを通して青少年の健全育成と、クオリティーの高い価値観・道徳観の涵養を図っていきます。</p> <p>今後も積極的に取り組みます。</p> <p>受け入れ側の容量の問題もあるが検討していきます。</p> <p>今後も、積極的な広報を行います。</p> <p>検討していきます。</p>

平成30年度（平成29年度事業）笠間市教育委員会外部評価委員会評価結果に対する改善への取組について

事業名	外部評価結果	意見・提案事項	改善への取組
笠間市成人式事業 生涯学習課	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> ・18歳成人の成人式に向けての準備も進めていただきたい。 ・18歳が成人式に参加する場合、センター試験等も考慮して開催時期を考える必要がある。 ・実行委員会については、ぜひ引継が出来るようなシステムを作っていただきたい。 ・成人式に参加する若者の意識は、「まつり」的な感覚が主であろうと思う。中高生の時からの成人式に対する意識付けが出来れば。 ・参加者の指標設定について、人数よりも割合（対象者の〇%）のほうが良い。 ・出席率の高さに驚いた。大人として上手くサポートしつつ継続してほしい。 ・式典は、県外在住者の帰省や旧友との再会の機会になっており、引続き継続をお願いしたい。 	<p>18歳成人式は、平成34年度（2022年度）であり、国の考え方や近隣市町村状況を踏まえ、平成32年度までに方向性を出して参ります。なお、センター試験の時期は避ける方向で検討して参ります。</p> <p>成人式を成人者自らが企画運営する、現在の実行委員会方式は、今後も継続して参ります。</p> <p>笠間市高校生会の活動の中で、成人式運営に協力を要請するなど、少しずつ意識の浸透を図って参ります。</p> <p>対象指標を人数としており、成果についても統一して現行の人数といたします。ただし、成果の数値として参加率は把握して参ります。</p> <p>成人式に対する期待の高さが出席率の高さに表れているものと思われ、市としても、生涯の良き思い出となるよう継続して参ります。</p>
全国子ども陶芸展事業 生涯学習課	改善し、継続	<ul style="list-style-type: none"> ・若干のマンネリ化している感じがあるため、新しい取組を考えていただきたい。 ・「マンネリ化」への対応を考慮することで、より発展することを希望する。 ・北海道美瑛市とのコラボも考えてほしい。（かさまから派生した） ・有名人、プロとのコラボなど、テコ入れを適宜行いつつ、さらに実りのあるものにしてほしい。 ・子ども陶芸展を広報するとともに、笠間焼を展示、アピールするアイデアがあるべき。限られた事業でも地域振興を交えられるように願う。 ・笠間焼窯元の作品を置くなど、PRをすることは出来ないか。せつかくの陶芸展だが、絵画の作品展など同じではもったいない。 ・茨城新聞社への負担金の使途を明記してほしい。 ・全国的に高い知名度を持っている事業なので、ぜひ継続してほしい。 	<p>国の伝統文化である陶芸を通し、子供達の豊かな感性を養うことにより自由な創造力を発揮する場を提供することを目的に開催しております。その目的に合わせた取り組みを検討していきます。</p> <p>窯元等プロの方の作品を展示すると、作品保護などの点から展示方法を改良しないと出来ないため、子ども陶芸展並びに笠間焼をPRする別の方法を検討していきます。</p> <p>茨城新聞社との共同主催のため、市の負担金だけの使途明記は難しいです。子ども陶芸展全体の収支については決算後であれば明記いたします。</p> <p>毎年全国北海道から沖縄県までの子供達の陶芸作品が展覧されており、笠間の陶芸展として定着しているため今後も継続して開催していきます。</p>
市民美術展覧会・公民館まつり事業 笠間・友部・岩間公民館	改善し、継続	<ul style="list-style-type: none"> ・作品が一部の団体や年齢の方々に固定化しないように、もっと広報活動を行っていただきたい。 ・幅広い年齢層の展覧を実現できるように、公募方法に工夫を。 ・市民展の広報の枠が狭い。幅広く公募して、入選作品のみを展示するという形にしては。 ・高校生の作品は、引き続き出展の働きかけを行ってほしい。 ・二つの事業を関連付けると、予算や人材、場所等のより効率的な利用につながるのでは。 ・公民館まつりを予選的な扱いにして、優秀な作品を市民展に出展するなどしてはどうか。 ・幅広い世代にさまざまな角度から芸術・美術に触れる機会としていったらと考える。 ・子どもの絵の投票、表彰、アイデア賞等。子ども向けワークショップとの抱き合わせ。幼児教育施設や高齢者施設との連携。 ・老若男女、あらゆる世代が集まり、交流できる事業になるよう期待。（動画・映画・イラスト部門等） ・iPad等を活用した動画作品等、若年層にも興味のある部門を検討していただきたい。 ・実行委員構成員の方向性だけでなく、目的意識のある事務局の感覚も大事であるかも。 	<p>市民美術展覧会については、多くの人が出品出来るようにPRの充実強化を図っていきます。</p> <p>市民美術展覧会への出品に繋がるよう、公民館の定期講座・自主講座をより充実させます。</p> <p>市民美術展覧会の充実を図るため、実行委員会で年間を通して検討していく体制を作っていきます。</p> <p>事務局職員の研修を強化していきます。</p>

平成30年度（平成29年度事業）笠間市教育委員会外部評価委員会評価結果に対する改善への取組について

事業名	外部評価結果	意見・提案事項	改善への取組
管理運営事業	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> ・下水道のインフラの問題はぜひとも対策を考えていただきたい。 	笠間学校給食センターについては、公共下水道の事業認可区域外のため、引き続き現行の合併処理浄化槽での対応になります。
笠間・岩間学校給食センター		<ul style="list-style-type: none"> ・「食育」の視点での運営をさらに期待したい。 ・可能であれば、生徒へのアンケートを簡単に行い、結果を参考に献立を作るのも良い。 ・子どもが献立を考える日はどうか。食への関心が高まる。 ・地産地消の更なる努力を要望するとともに、笠間の農業力を小中学生を通じて各世帯へアピールできると良い。 ・笠間市で使えるものは、すべて笠間市から供給を受けるのが一番いい。 ・各種の点検が業者任せになっている。適切な管理を行っていただきたい。食の安全のためには十分な配慮が必要。 ・調理業務委託業者の管理をお願いしたい。ブラックボックスになってはいけない。 ・必要に応じ、必要な回数以上の点検、検査等が行われている。 ・岩間の施設は更新が近付いている。友部の自校給食の廃止も含め、長期的な計画が必要。 	<p>「食育だより」等で野菜の産地などを周知しております。また、学校の放送でも「一口メモ」として、食育の推進を図っております。毎年5月に、食のアンケートを行っており、献立の参考にしております。各学校1献立で、「リクエスト献立」の取り組みを実施しており、今後も継続して予定であります。</p> <p>地産地消の取り組みとして、笠間市産野菜の利用推進を図って参りましたが、引き続き、種類や納入量の拡大に向けて、更なる努力をしていきます。</p> <p>調理業務に係る点検については、毎日、委託業者に調理管理報告書を提出させて確認しております。調理機器の不具合等の報告もその都度受けて対応しております。また、栄養教諭により、検収時の納品物の管理や調理の現場の管理を行っております。職員も必要に応じて調理室等の巡回をしております。</p> <p>平成28年度から計画的に更新を進めております。</p>
学力向上支援事業	改善し、継続	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領でも示されているように、基礎学力の向上と情報活用能力の向上の二つを高める教育改善は、ぜひ進めていただきたい。 	「学び合い学習」等を通し、主体的・対話的さらには協働的な取り組みによるアクティブラーニングの実践化に取り組んでいます。学習意欲や基礎学力の向上を図る指導法の工夫改善にもしっかりと焦点を当てた取り組みを進めていきます。情報活用能力につきましては、これからの子どもたちにとって、益々重要になっていくことを踏まえ、ICT教育やプログラミング教育の充実を図っていきます。
学務課		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎が出来てからアクティブラーニングとなりがちだが、アクティブラーニングの中で基礎を身に付けるような教材開発が必要になっている。 ・実生活の中には国語があり、数学があり、理科、英語がある。実生活で生きる学習があることを意識付けできると良い。 ・可能であれば、学習塾等の学習産業との連携も視野に入れて、教育改革を進めていただきたい。 ・塾に通う子とそうでない子を把握し、他機関との連携を含めた学習支援が更に望まれる。 ・児童生徒の「やる気」を引き出す教師の力量形成を育成する研修等の実施も検討していただきたい。 ・担任経験のない方もいるでしょうから、講師の方のケアや研修を充実していただきたい。 ・学力向上は、児童生徒の興味を引き出せるかどうかで変わる。 ・チームティーチングを活用し、目標達成には何が必要か、（例えば、基礎）理解できるように指導すべき。 ・習熟度別のクラス編成では社会勉強にならないという問題がある。 ・チームティーチングの取組は良いが、それをどこに重点を置いて配置するか判断が重要。アドバイザー的な位置づけの人材が必要である。 	<p>民間の指導法のよさも視野に入れた、指導体制の整備を検討していきます。</p> <p>学力向上において、児童生徒の学習意欲や主体性等を育てることは大変重要であり、そのため、「やる気」を引き出すことのできる教師の力量形成は不可欠です。そのため、現在、そのような視点に立った指導力向上研修を実施しています。講師の参加も可能な研修ですので、これからは、より一層積極的に講師の方々へ参加呼びかけを行っていきます。</p> <p>常に、習熟度別の編成で行うのではなく、単元や教材によってチームティーチングなども組み合わせた授業実施を考えていきます。</p> <p>指導対象・指導目的の明確化を図るとともに、客観的に指導のできるアドバイザー的な人材の確保にも取り組んでいきたいと考えます。</p>

平成30年度（平成29年度事業）笠間市教育委員会外部評価委員会評価結果に対する改善への取組について

事業名	外部評価結果	意見・提案事項	改善への取組
特別支援教育支援員配置事業 学務課	現行どおり継続	<ul style="list-style-type: none"> ・ 繊細な問題であり、注意深い対応が必要。引き続き、親・教育現場・教育委員会の最大の協力をお願いしたい。 ・ 支援内容が多岐にわたり、家庭との兼ね合いなど難しい事業だが、一人一人に必要な支援が行き渡るよう、公平に行ってほしい。 ・ 保護者への対応も重要な課題である。対象の児童生徒に対する配慮をどのようにすればいいのか、教員への対応方法の指導等が必要。 ・ 支援員も含め、保護者と学校とのミーティングが出来ると良い。 ・ 一般の教員に対する特別支援の教育の充実を、ぜひ進めてください。 ・ 支援員の指導やケアを十分に行ってほしい。 ・ 研修の充実をお願いしたい。 ・ 人材の確保は急務である。広報を工夫する（口コミ等含め）。 ・ 子育てがひと段落し、支援員の仕事を始める人は多い。条件等口コミで広がることもあるので、幼稚園等の保護者に呼び掛けてみるのも一案か。 ・ 出来る限り支援員は増やしていただきたい。 ・ 予算面だけでなく、人的資源の活用を考えていただきたい。 	<p>配慮を要する児童個別の実態に応じ、将来的にどのようにすることがより適切なのかを、本人・保護者のニーズはもとより、専門家の意見等もしっかりと取り入れ、丁寧かつ公平な対応を図っていきます。</p> <p>配慮を要する児童生徒の対応においては、保護者及び担任はもとより、そこに関わる養護教諭等の関係職員、支援員を加えたケース会議を積極的に実施するよう進めていきます。また、特別支援教育研修に加え、OJTを通じた教職員の資質向上を図っていきます。</p> <p>支援を必要とする児童の状況は様々であり、支援員と担任との連絡調整や支援員のスキルアップの充実体制を構築していきます。</p> <p>保護者や学校のニーズの高まりを考慮しつつ、インクルーシブ教育の基盤となるユニバーサルデザインを取り入れた学級経営や授業実践を行うことにより、配慮を要する子どもたちが、楽しく学校生活が送れるよう体制づくりに努めていきます。</p>